

獨混七七旅醫隊三五號 昭二二三四

調製官 陸軍軍醫大尉眞岡修

昭二三年二月

自一月衛生業務要報地都縣隊  
至二十八日衛生史編纂資料各都昌號

獨混七七旅團

一、部隊行動概要

ノ一般狀況

兵團ハ都屬南山林麓ニ位置シ現地自活作業、職業輔導教育  
等皇國復興ノ爲ノ準備ノ教育ニ勉ムト共ニ心身ノ練成ニ精  
進シアリ

又回歸熱ノ撲滅ヲ主眼トセル防疫ニ全カヲ傾倒セリ

又部隊行動ノ概要

(一) 兵團マリア原島檢索ヲ終了ス

檢索班員ノ一部ヲ以テ引續キ回歸熱マリア等ノ檢索業

務ニ任セン

(二) 六日高級軍醫會同ヲ實施シ防疫復員業務等ニ關シ指示ス

- (3) 十一日 記念節遠拜式ヲ舉行引隨キ司令部運動會ヲ行フ
- (4) 十四日 中國例ヨリノ人員點呼ヲ受ク
- (5) 十九日 衛生材料關係書類ニ復員關係書類ノ第三回検査ヲ實施ス
- (6) 二十日 烏袋軍醫大尉吳斌ニ業務連絡ヲ為シ出張衛生材料若干受領ニテ歸隊ス
- (7) 二十日 部隊長會同ヲ實施シ復員關係事項ニ關シ討議ス
- (8) 二十四日 市軍醫大尉ノ護送ニ依リ患者五三名(担送一三名)第七十七兵站病院ニ後送ス
- (9) 二十五日 高級軍醫會同ヲ實施シ復員疾病ニ關スル衛生業務防疫等ニ關シ指示ス
- (10) 二十七日 衛生材料關係書類ニ患者關係書類ノ第三回検査ヲ實施ス
- (11) 復員ニ關スル教育紙芝居ヲ兵団ニ於テ作成シ兵団内ヲ巡回シ復

司業務ノ圓滑ニ實施ヲ期シアリ

(1) 眞岡軍殿前大尉ニ週概ホ一圓ノ割合ニテ兵團内ヲ巡視シ主トシテ團  
歸熱防疫ニ對スル現地指導ヲナス

患者ノ狀況

八月間ノ戰死傷年病發生狀況

(1) 月間戰死傷者ノ發生ナシ

(2) 年病患者發生ノ狀況(練兵休以テ)左表ノ如シ

病名	旅團	旅司	五二四	五二五	五二六	五二七	五二八	旅砲	旅工	旅通	療養	計
マラリア	五	一	五	三	三	三	六	一	一	五	三	三
回歸熱	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	六
脚氣	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	一
感冒性疾患	五	六	九	九	一	一	三	三	三	三	三	九
栄養失調症	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	七
神経系病	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	六

榮養器病	外 傷	外 病	其 他	計
二	一	一	一	一八
五	四	七	七	四九
六	一	三	六	五九
五	一	一	二	六〇
六	一	一	一	一八
一	一	一	七	一六六
一	一	一	二	二六
一	一	一	二	二七
一	一	一	一	五
一	一	一	一	八
三六	一四	一	二	四九六

患者數ハ先月ニ比シ急激ニ減少シマアリ  
 之ガ主要ナル原因ハ  
 ①マシリア檢索ニ基ク陽性者ノ徹底治療  
 ②兵業ノ輕減ニ基ク兵員ノ心身ノ餘裕  
 ③防疫ノ徹底ニ基ク衛生状態ノ改善  
 ④幹部ノ部下指導保育ノ適正  
 等與テ得ヘシ  
 又兵員減耗ノ狀況  
 月間兵員減耗狀況左ノ如シ(入院患者中月間判明セルヲ含ム)



前月引續々月間防疫ノ重點ヲ回歸熱防疫ニ指向セリ  
 幹部以下兵團ヲ譽テ回歸熱防疫ニ全カヲ傾注シ逐次成果  
 ヲ見タルモ尚六三名ノ患者ヲ出セル極メテ遺憾ナリ  
 兵團内大半ノ部隊ハ月間發生僅少ナリシモ獨歩五七大隊獨  
 歩五八大隊ニ於テ多發ヲ見タリ  
 之ガ原因ハ患者發生當初ニ於ケル早期技術的處置ノ適確ヲ  
 缺キタルト防疫軍規ノ嚴正ヲ缺キタルニ依ルト思考セラル  
 就中獨歩五八大隊ノ發生ハ殆ト朝鮮兵中隊ニ限ラレアリ  
 之ニ對スル幹部ノ指導ハ細心懇切ヲ盡シアルモ軍規嚴正ヲ缺  
 キ防疫衛生識能ノ低調トニ依リ續發セルモノト思考セラル  
 下旬ニ至リ略々終熄ノ域ニ達シタルモ尚防疫ヲ一段ト強化シ爾後  
 ノ續發防止ヲ期シアリ

2. 防疫ノ狀況

(1) 前月實施セルマラリア檢索ニ基ク陽性者ノ徹底治療ヲ實施

ヒル為ノマリアア患者ハ急激ニ減少シアリ

特ニ治療期間ノ安静療法ヲ併用實施セシメアリ

（マリアア患者發生ノ狀況左表ノ如シ（就業以ト）

區分	旅司	五二四	五五五	五六五	五七五	五八	旅砲	旅工	旅通	治療	
新離事											計
味	四三	二二	一五	一六	一三七	一四五	七九	四四	一九	二二	九
											五九九

四、健兵對策ノ狀況

ノ健兵對策ノ重點ヲ弱兵ノ体力増強ト平病撲滅ニ指向シアリ

實施ノ主要事項ハ概テ前月ノ如シ

特ニ兵業ヲ体力ニ應ジ輕減セシメ攝取エネルギーニ對シ消費

エネルギーノ平衡ヲ保タルル如ク指導シアリ

又勤務割出表ノ再檢討ニ基キ兵業ノ均等化ヲ計リ幹部

ノ細心ナル部下指導ニ依リ保育成果ハ遂次向上ノ傾向ヲ示シ

アリ患者ハ急激ニ減少シアリ

結核性疾患ノ發生狀況

結核性疾患ハ月間發生ノ態ス

結核性疾患ノ豫防、重點ハ感冒豫防ト室内ノ塵埃防止ニ  
重點ヲ指向シアリ

又特ニ体力ノ増強ニ依リ抵抗力ノ向上ヲ計リアリ

五、衛生材料ノ狀況

月間衛生材料ノ供給ハ征討隊ヨリ約ニ相シ補充ヲ受ケル外ナシ

兵團ハ現存有量ヲ活用スルト共ニ所要ニ應ジ重點的ニ使用シテ

一方現地自治ヲ更ニ進化シ疾病ノ根治ヲ計リ以テ内地歸還時健全

ナル心身ヲ以テ活動シ得ル如ク指導シアリ

月末現在ニ於ケル現存有量ハ概ネ平均ニヶ月ノ所要量ナリ

(1) 以下特ニ補充ヲ必要トスル材料ハ左ノ如シ

ナルバルサン劑、マーキヨローム、結核劑、皮膚病藥、驅蟲劑

酒精等



(2) 月周現地自活を主要藥材左ノ如シ

品目	数	量	品目	数	量
炭末	五	二リ	馬刺(磁櫃)	五	一三、〇リ
硫花を多々液	〃	一、〇リ	單軟膏	〃	〇、〇五リ
ゴキメンタ末	〃	二リ	硫黃軟膏	〃	〇、〇リ

六二般衛生狀況

ハ被服ノ狀況

月周被服類ノ補給ハ征部隊ヨリ滿上靴五リ(中古品)並ニ靴下三リ  
(新中古品)ノ外ナシ

之等諸品ハ復買用トシテ格納シ現使用被服ハ前月ニ大差ナキモ使  
用ニ依ル減耗ハ若干アリ

〇糧食ノ狀況

主食ハ玄米トシテ概ネセリ——六五〇瓦補給セラシ需要ヲ滿タシアルモ  
副食ハ専ラ野菜ニ限ラレアリ殆ド魚肉獸肉ハ皆無ニ等シキ狀況

ナリ從テ動物性蛋白質ニ脂肪ニ缺乏ヲ來シアリ之が不足量ハ植 物性蛋白質ニ脂肪ヲ以テセント計畫セラレアルモ入手容易ナラス	又燃料ノ不足ノタメ一日ニ食給與ハ實施困難ニシテ拔根作業等 ニ依リ極力燃料ノ増カヲ図リアリ	且宿營ノ狀況	宿舎ハ前月ト大差ナシ但シ敷藁類ニ不足ヲ來シアルヲ以テ逐次 新藁枯草ノ補給ヲ實施シアリ	※給水ノ狀況	前月ト大差ナシ	六氣象ノ狀況	月間ノ天候ハ晴天一九日曇天五日雨天四日ナリ 一般ニ氣温ハ温暖ニシテ採暖ノ要ヲ認メザリシモ下旬ニ至リ降雨ヲ見 稍々寒冷ヲ覺エタリ	七、接收ニ關スル涉外事項
---	---	--------	---	--------	---------	--------	---	--------------

特記事項ナシ

八、内地歸還ニ伴フ衛生諸般ノ處置

ハ、自給自活對策ハ前月ニ大差ナシ

又、衛生材料關係書類ハ三回ニ亘リ細密ニ検査ヲ行ヒ復員ニ支障ナカラシメアリ

ウ、一般傷病傳染病ノ發生收療狀況

一般傷病ノ發生收療ハ前記ノ如シ

特ニ、痲熱ノ收療ニ重點ヲ指向シ兵團患者療養所ハ殆ト回歸熱患者療養所ノ觀ヲ呈シアリ

之ガ治療ハサルバルサシ劑ノ皆無ニ依リ「マ」キ「ロ」療法ヲ行ヒアルモ相當見レキ成果アリ(成績既報)

回下復員ヲ控ヘ回歸熱ノ完全撲滅ト爲シ驅除ヲ連續進行ニ實施シアリ略々所期ノ段階ニ達シアリ

又、マ「リ」了患者ニ對シテハ、硫規ニ週回療法ヲ「キ」ノ「プ」ラス「モ」ヒン療法ヲ

行ヒ治療ノ徹底ヲ期シアリ

5. 性病患者ノ摘發ニ関シテハ身体検査ニ依リアリ

6. 検疫

検疫関係書類ハ略々完備セリ

検疫實施ノ要領ノ研究指導ハ部隊長會同、單醫會同其他  
復員主任者會同等ニ於テ實施シアリ

又之ガ一般普及ハ教育級芝居ニ折込ミテ實施シアル外來月上  
旬豫定ノ復員演習ニ於テ教育スル豫定ナリ

調製官 陸軍軍醫大尉 眞岡 修

昭和二十三年三月

衛生業務要報

地	江西省隊	獨	立	混	成
名	都昌號	第	八	十	七
		旅			團

一部隊行動の概要

一 概況

兵團の前月ニ引續キ都昌南山麓ニ位置シ職業補導復員講習  
並ニ書類整備及防疫ヲ重要項目トシテ精勵シアリ  
本部隊行動ノ概要

(1) 大目軍參謀長以下來隊セル

(2) 十日軍醫會同ヲ實施シ防疫並ニ復員業務ニ関シ指示ス

(3) 十八日ヨリ約一ヶ月ノ予定ニテ紀念事業トシテ都昌縣營運動場操

築作業ヲ開始ス

(4) 十八日九江ヨリ帰隊セル梱包輸送隊ノ來船セル中國船員ニ疫癘疑  
似患者發生セルヲ以テ之等輸送員ヲ隔離スルト共ニ兵團ハ疫癘ニ對

スル第二期予防ヲ實施ス

(5) 二十四日長谷川軍醫中尉、指揮ニ依リ患者五三名ヲ九江ニ後送ス

(6) 二十七日韓國籍兵九江ニ集結、爲都昌ヲ出發ス

(7) 三十日兵團全員ニ對シ種痘ヲ實施ス

二、患者ノ狀況

(1) 月間平病患者發生狀況左表、如シ(練兵休以上)

病名	旅司	五	五	五	五	五	六	旅	旅	旅	通	患	療	計
マラリア	六	一	二	四	〇	一	七	二	〇	三	〇	一		一八一
回帰熱		三		一		一		六		一				一一
脚氣								三		一				四
患留位寒熱	七		二	八		九		二	四	二	七			一〇八
榮養失調症						三		二	二					二四
神經系病			一			一				三				一五
營養器病	九		二	四		八		五						三二

脚氣	瘧疾		パシケス		腸チフス		赤痢		病名別	計	外傷	外被病
	入院	部隊	入院	部隊	入院	部隊	入院	部隊				
二								九	旅司	二		
									五	三		
									四	三		
									五	九		
									五	四		
									五	一		
									六	二		
									七	三		
									八	四		
									九	五		
									一〇	六		
									一一	七		
									一二	八		
									一三	九		
									一四	一〇		
									一五	一一		
									一六	一二		
									一七	一三		
									一八	一四		
									一九	一五		
									二〇	一六		
									二一	一七		
									二二	一八		
									二三	一九		
									二四	二〇		
									二五	二一		
									二六	二二		
									二七	二三		
									二八	二四		
									二九	二五		
									三〇	二六		
									三一	二七		
									三二	二八		
									三三	二九		
									三四	三〇		
									三五	三一		
									三六	三二		
									三七	三三		
									三八	三四		
									三九	三五		
									四〇	三六		
									四一	三七		
									四二	三八		
									四三	三九		
									四四	四〇		
									四五	四一		
									四六	四二		
									四七	四三		
									四八	四四		
									四九	四五		
									五〇	四六		
									五一	四七		
									五二	四八		
									五三	四九		
									五四	五〇		
									五五	五一		
									五六	五二		
									五七	五三		
									五八	五四		
									五九	五五		
									六〇	五六		
									六一	五七		
									六二	五八		
									六三	五九		
									六四	六〇		
									六五	六一		
									六六	六二		
									六七	六三		
									六八	六四		
									六九	六五		
									七〇	六六		
									七一	六七		
									七二	六八		
									七三	六九		
									七四	七〇		
									七五	七一		
									七六	七二		
									七七	七三		
									七八	七四		
									七九	七五		
									八〇	七六		
									八一	七七		
									八二	七八		
									八三	七九		
									八四	八〇		
									八五	八一		
									八六	八二		
									八七	八三		
									八八	八四		
									八九	八五		
									九〇	八六		
									九一	八七		
									九二	八八		
									九三	八九		
									九四	九〇		
									九五	九一		
									九六	九二		
									九七	九三		
									九八	九四		
									九九	九五		
									一〇〇	九六		

月間、主要疾患ハ「マラリア」及感冒性疾患ナリ之カ主ナル原因ハ月間  
 ノ氣候不順ニ起因スルモノ多キカ如シ  
 兵員減耗、状況（入院患者中月間判明セル分ヲ含ム）左表ノ如シ

計	其 他		結 核		榮養不全症		マラリア		田 帰 熱		病 名 別
	入 院	部 隊	入 院	部 隊	入 院	部 隊	入 院	部 隊	入 院	部 隊	
											旅 司
											五
											四
											五
											五
											天
											五
											七
											五
											二
											旅 砲
											旅
											工
											旅 通
											患 療
											計
											七
											二
											三
											四
											六
											二
											五

3. 患者輸送の状況

(1) 月間患者療養所ニ收容セル患者ハ一六名ナリ

(2) 二十四日九江第一七七兵站病院ニ五三名船便ニ依リ後送セリ

三防疫並ニ防瘧ノ状況

ノ防疫ノ状況

(1) 月間防疫ノ重英ヲ田帰熱並ニ瘧瘧ニ指向セリ

(2) 田帰熱ハ月間十二名発生セリ



之ヲ發生、狀況ハ回帰熱治療退院セル者ト同班ニ起居セル者ヨリ  
 五〇四大隊ニ三名五七六大隊ニ六名爆發発約ニ發生セルモノ主体ヲナシ他ハ  
 五〇五大隊五二六大隊五二八大隊ニ各一名ナリ  
 之ヲ原因ハ回帰熱患者ノ檢血陰性トナリ居リシモ未タ治療セズ回  
 帰熱スピロヘトクニ保有シアリシニ起因スルト思考セラレ  
 部隊ハ患者ヲ直チニ隔離スルト共ニ防疫ニ万般ノ手段ヲ講ヒテ  
 月末現在ニ於テ回帰熱ハ概テ完全ニ終熄セルモノト認めラル、モ更ニ  
 續発防止ニ銳意努メアリ  
 尚回帰熱患者ノ治療判定ヲ適確ナラシムヘク指導シアリ  
 (3) 十八日九日ヨリ帰隊セル梱包輸送隊ノ乗船セル民船ノ中國船員ニ疫  
 癘疑似患者發生セルトノ報ニ接シ兵團檢疫班ヲ以テ碼頭ニ於テ乗船  
 人員梱包ヲ消毒スルト共ニ輸送隊員ヲ直チニ隔離シ震命五号ニ基キ第  
 二期予防ヲ實施セルモ輸送隊員ニ罹患者ナク三二日二週間ノ隔離ヲ  
 解除セリ

1873

尚兵團ハ三十日全員ノ種痘ヲ實施シ防疫ノ万全ヲ期シアリ  
 又防疫ノ状況

(1) 前月同様再發防止治療ノ徹底ヲ重英トシ實施シアル外特記事項  
 ナシ

(2) 月間マリアナ患者發生ノ状況左表ノ如シ(就業以上)

計	新鮮マリアナ		陳旧マリアナ		計	
	旅同	旅砲	旅同	旅砲	旅同	旅砲
二九	一五	一四	二九	一四	二九	一四
一九	一五	一四	一九	一四	一九	一四
五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二
一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七
一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一
二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三
二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四
二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七
二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八
二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
三一	三一	三一	三一	三一	三一	三一
三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二
三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
三四	三四	三四	三四	三四	三四	三四
三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五
三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六
三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七
三八	三八	三八	三八	三八	三八	三八
三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
四一	四一	四一	四一	四一	四一	四一
四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二
四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三
四四	四四	四四	四四	四四	四四	四四
四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五
四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六
四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七
四八	四八	四八	四八	四八	四八	四八
四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九
五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇

四健兵對策ノ状況  
 健兵對策ノ重英ソ前月同様弱兵ノ保育ト卒病ノ撲滅ニ指向  
 シアリ

目下ノ實施ノ重英事項左ノ如シ  
 (1) 幹部ノ眞ニ骨肉處ヨリスル部下指導

(2) 兵業ノ輕淡ト体力ニ即應セル勤務ノ耐兵

(3) 精神的並ニ肉体的両面ヨリスル休養ノ適正化

(4) 個人衛生ヲ衣食住ニ對スル衛生指導

成果……月間天候ノ不順ナリシニカ、ハラス平病患者ハ遂次減少シ又

一般兵員ノ体力若干向上ヲ示シアリ

ニ結核性疾患發生狀況

月間兵團内ニ結核性疾患三名發生セリ

該患者ハ何レモ既往症ヲ有シアリ

氣候ノ不順生活環境ノ不良ヨリシ發病ニ至リシナリト思フ

防疫……之等患者ハ直ニ隔離送院スルト共消毒等ノ防疫ヲ徹底シ

續發防止ニ勉メアリ

又体操等ニ依リ体力ノ增強ニ依リ抵抗力ノ向上ヲ計リアリ

五衛生枝料ノ狀況

ノ月間軍其他ヨリ補給ナシ

兵團ハ現保有量ヲ極力愛護節用ニ勉ムルト共ニ兵團内ニ於テ彼我相融通シ重矣的ニ且有効適確ナル使用法ヲ考究實施シヤリ

田疇熱治療劑タルガルバルサンハ一部地方ヨリ購辦セリ之ニ依リ患者ハ急速ニ治癒シツヽアリ

ニ現地自活ニ関シテハ前月同様軍醫部ヨリ兼料ヲ交付シ各部隊毎ニ製劑スル外山野ノ藥草木ヲ採集利用シヤリ

### 文一般衛生狀況

ニ被服ノ狀況

被服ノ程度ハ前月ニ大差ナキモ逐次使用ニ依ル破損アリ極力個人修理ヲ實施シアルモ補修材料不足ニ爲修理意ノ如クナラス  
ニ糧食ノ狀況

前月同様主食ハ概ニ需要量ヲ滿タシ得ルモ副食ハ極メテ單一的ニシテ干大根菜類ニ限ラレアリ

動物性食品ハ皆無ニシテ脂肪類ハ植物油ニ依リ攝取セラレアルモ

蛋白質ハ充分ニ補給セラレアラス

3. 宿營ノ状況

宿舎ニ関シテハ特記事項ナシ敷藁類ハ減耗シアルモ補充意ノ如クナク  
藁ノ入手ニ苦心シアリ

4. 給水ノ状況

前月ト同様ナリ

鄱陽湖ノ逐次増水シ来リアルヲ以テ之カ利用ハ近ク實施セラレ得ルモノ

ト推定セラル

5. 氣象ノ状況

月間ノ天候ハ晴九曇天七雨一五ニシテ天候極メテ濕潤ナリ

兵舎ハ茅舎ナルヲ以テ所々雨洩レヲ見タリ

七. 接収ニ関スル渉外事項

特記事項ナシ

八. 内地帰還ニ伴フ衛生諸般ノ處置

1877

1. 自給自活対策前月ニ大差ナシ

2. 衛生材料、處置ニ関シテハ帰還時期、接道ニ伴ヒ内地携行材料ト中國側讓渡材料トニ大別シ應急ノ處置ヲ準備シアリ

3. 衛生關係書籍、整備並ニ携行区分處理要領等モ略々準備ヲ完了セリ

4. 一般傷病傳染病發生收療輸送ノ狀況

(1) 發生狀況ハ前述ノ如シ

(2) 收療輸送ノ狀況

兵團内ニ發生セル重症患者ハ總テ患者療養所ニ收療シアリ

兵團内ノ要後送患者ノ處理ニ関シテハ民船ニ依リ輸送計畫ニ基

キ逐次九江兵站病院ニ後送スヘク準備シアリ二十四日五三名ヲ後送可

次回ハ本月早ク後送ノ予定ナリ又行軍中患者ハ擔架輸送ヲ要スル者

アリテ並ニ性病患者ノ處理ニ関シテハ前月同様ノ處置方針ニ基

キ實施シアリ

4 検査

集中地検査(腸管系傳染病)對スル病理検査ノ除クニ(震命某  
七號ニ基キ來月六日ヨリ實施スル如ク準備シアリ  
又腸管系傳染病ノ病理検査ハ湖口ニ於テ乗船時實施スル如ク  
第十三師團ニ連絡中ナリ

獨混旅醫第四號 昭三二五五

調製官 陸軍軍醫大尉 眞岡 修

昭和三十二年四月	衛生業務要報	地	江西省	隊	獨混旅醫第四號
東亞戰爭衛生要報纂資料	名	都昌	號		

一部隊行動の概要

兵團依然都昌南山麓ニ位置シ職業補導教育現地自活作業並ニ

復員訓練ニ精進シアリ

本部隊行動の概要

- (1) 一日復員會同ヲ関キ復員演習ニ関スル細部事項ヲ研究檢討ス
- (2) 三日石川軍醫中尉ノ指揮ニ依リ患者六九名九江兵站病院ニ後送ス
- (3) 自三日至五日 種痘ヲ實施ス
- (4) 自三日至九日 旅團復員演習ヲ實施ス
- (5) 五日軍醫會同ヲ實施シ檢疫並ニ復員演習ニ関スル事項ヲ指示檢討ス
- (6) 自六日自十二日 第一回集中地檢疫ヲ實施ス
- (7) 十三日中國供應分站ニ痘瘡疑似患者發生セルヲ以テ兵團ハ震命第一號ニ





計	其 他	花 柳 病	外 傷	外 被 病	營 養 器 病	神 經 系 病	策 養 失 調 症
一三	一			一	二	一	
一九	四		一	二			
八〇	四		一	三	一〇	一	
八一	一〇				七		
六一	一六				五		
一〇六	二〇		四		九	四	
二六	三		二				
五二	六				六		
六	二		一				
五			一		一		
四四	六		一〇	六	四	六	
八					〇		

月間発生セル患者ハ、ラリア、感冒性疾患ヲ主要疾患トシ、栄養器疾  
患之ニ次ク、患患者數ハ、遂次減少、傾向ヲ示シアリ、又重症ナル患者ノ発生  
ヲ見ス

主要疾患ノ発生原因ハ、天候ノ不順ト宿營ノ不備ニ起因スルモノ多シ  
兵員減耗ノ状況

月間隊死七並ニ患者療養所死亡ナシ



六九名ヲ民船ニ依リ九江ニ後送セリ

(2) 當兵團ニ於ケル患者後送ハ民船ニ依ラサルヲ得サル狀況ニシテ併モ民船ノ收得容易ナラス一時ニ大量輸送ハ實施困難ナリ  
從ツテ民船徵庸時ニ少數ヲ逐次連續的ニ後送スル方法最モ適

當ナリト思考シアリ

兵站病院ノ收容力等ニ依リ左右セラルト大ナラシモ可及的兵團ノ  
特種事情ヲ考慮シ後送ヲ許可セラレンコトヲ切望ス

三防疫並ニ防癘ノ狀況

ノ防疫ノ狀況

(1) 防疫ノ重莫ク回歸熱並ニ痘瘡予防ニ指向シアリ

月間發生セル回歸熱十二名ハ治療ノ不徹底ニ基ク再發並ニ其ノ同襲ニ  
依惹染ニ依ルモノナリ該患者ハ直ニ隔離防疫ノ万全ヲ期シアリ月末  
現在續発ノ徴ヲ認メス

(2) 痘瘡予防ニ関シテハ種痘ヲ實施セル外特ニ中國側ヨリノ搬入防止



四健兵對策ノ狀況

ノ健兵對策ノ重矣ヲ弱兵ノ保育並ニ卒病ノ撲滅ニ指向シアリ

月間特ニ留意セル事項左ノ如シ

(1) 兵業ノ輕減ト体力ニ應ジタル勤務ノ耐与

(2) 現地物資特ニ野草<sup>眞具</sup>ノ收得利用ニ依ル給養ノ向上

(3) 精神的並ニ肉体的両面ヨリスル休養ノ適正化

又果……野草<sup>眞具</sup>ニ依ル給養ノ向上ハ相當ニ見ルヘキモノアリ

又精神的並ニ肉体的休養比較的適切ニ實施セラレアリ

兵一般ニ生氣ヲ見出シ得ツヤル感アリ

又結核性疾患發生ノ狀況ハ

月間獨歩五二大隊ニ二名發生セリ

一名ハ回復熱治癒後他ノ一名ハマリア治癒後ニ發生セルモノシテ何レモ前

記疾患ニ罹患中栄養衰ハ抵抗力減弱シ結核性疾患發生ノ誘因トナレ

ルカ如シ

西者ハ直チニ送院隔離スルト共ニ發生部隊ノ防疫ヲ徹底セシメタリ  
五衛生材料ノ状況

月間軍ヨリ一部衛生材料ノ補給ヲ受ケタル外他ヨリ補給ナシ

兵團内ニ於テハ彼我相融通シテ重矣且ツ有効適確ナル使用ヲ図リ  
復員待期間ニ治療ノ徹底ヲ計リ現地治療方針ニ基キ鋭意治療  
完壁ヲ期シタルモ復員時期ノ延期ニ伴ヒ衛生材料不足ヲ來シツマアリ  
之カ爲メ衛生材料ノ愛護節用ニ徹スルト共ニ現地自活ヲ強化シ以テ診  
療業務ニ支障ナカラシムル如ク期シアリ

現地自活ノ状況前月ト大差ナシ

六一般衛生状況

被服ノ状況

點

冬被服ハ破損極メテ大ナリ夏季被服ハ一部更新セラレタルモ程度ハ中

下ナリ

蚊帳ハ軍ヨリ交付ヲ受ケ近日入手ノ予是ナリ

之糧食ノ狀況

主食ハ六分搗程度ニシテ六〇〇瓦内外交付セラレ概ネ一食粥トシテ三食撮取ニアリ

野菜ハ平均一日六〇〇瓦アルモ品種單一酌ナリ魚肉ハ每週概テ一回ノ交付ヲ見アリ

油類ハ植物性油ヲ一日十瓦程度交付セラレアリ

蛋白質ハ一般ニ不足勝ナルモ最近大豆若干入手シ主食又ハ副食ニ混入撮取ニアリ

副食ノ不足ヲ補フ爲メ専ラ蕨芥ハビル 眞貝ヲ採集シカロリト、向上ヲ期シ相當ノ成果ヲ見ツニアリ

3. 宿營ノ狀況

宿舍ハ前月ニ大差ナキモ逐次破損シ降雨時相當ノ雨漏ヲ見舍

内一般ニ蒸潤ナリ

寢蓐ハ一部更新セラレアルモ最近近郊ニ於ケル藁ノ入手ハ困難ナリ



ツニアリ

給水ノ状況

前月ト大差ナシ 鄒陽湖ノ減水ニ利用價値ナク 尊ラ溪水池水ヲ利  
用シアリ

気象ノ状況

月間晴天ニ土日曇天二日雨天七日ニシテ氣候漸ク夏季ニ入リト

シアルモ月末ヨリ梅雨様ノ氣候ヲ呈シニアリ

七 接收ニ関スル渉外事項

特記事項ナシ

八 内地帰還ニ伴フ衛生諸般ノ處置

ノ自給自活対策ハ前月ト大差ナキモ衛生材料ノ不足ニ伴ヒ特ニ大

量製薬ヲ企図シアリ

ス 家庭製薬並ニ其ノ効用ニ関シテハ各部隊ニ印刷配布シ之カ普

及フ期ニアリ

3 一般傷病傳染病発生治療輸送、状況  
の發生狀況、前記ノ如シ  
必輸送ノ狀況

前月復員時期ノ接近トノ判断下ニ部隊患者ノ後送處置ヲ  
計リタルモ狀況ノ變化ニ伴ヒ再ヒ現地治療方針ニ基キ患者療  
養所ニ於テ治療ヲ實施シアリ

#### 4 検査

第一回集中地検査ハ震命第7号ニ基キ實施セリ  
腸管系急性傳染病ニ對スル病理試験ヲ除キ現地ニ於テ實施  
可能範圍内ニ於テ嚴重ニ實施セルモ效果概テ良好ニシテ特  
記スヘキ疾患等ナシ

1890